

くよみ通信

No. 38 2022/01/01

賀正 2022年元旦

2022年1・2月の活動予定

1/6(木)制作小委員会

観察ノート制作

- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員の制作小委員のみ参加

1/13(木)

「観察ノート・検討会」

- 集合 10:00 吉成市民センター
- 会員のみの参加可

1/20(木)

「青陵の森・整備」北側コース

- 集合 10:00 青陵中等教育学校
- 会員のみの参加可

1/27(木)

「青陵の森・整備」南側コース

- 集合 10:00 青陵中等教育学校
- 会員のみの参加可

1/29・30(土・日)

「仙台市市民センター 成果報告会」

- 29日 9:30~16:30、30日 10:00~15:00
- せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア

中山街道をめぐる 二つのイベント

12月は、中山街道をテーマにした大きなイベントが二つ、実施されました。

2日には根白石ボランティアガイドの小平さん・荒井さんの案内で終日、中山街道を歩きました。(詳細は裏ページ)

16日には、吉成市民センター主催で「古道中山街道の魅力」と題した、講演会が行われました。

八十川先生を講師に、本会も協力参加で、学習しました。初めて分かったことも多く、非常に勉強になりました。

「仙台道中歌」が、根白石の旧家・鷲尾家の古文書に残されていて、中山街道の25の地名が巧みに詠み込まれています。それを紐解くと、多くの謎が解けます。その一端をランダムに列記してみます。



↑ 八の縛使を試すの生姿。駈名く端々先姿を地解く。久川元文の読み披露

「月急山」の読みはガツキで、昔は月急坂で山ではなかった。月忌(上池・下池)とも書いた。そこに中山不動尊の鳥居と見事な松の木があったという。「梅田川」はかつての「銅谷沢」で、「枯木橋」もなかった。狼(オイヌ)石も表記がなく、「神」と詠んだ場所か。

「青陵の森観察ノート」の本文検討、制作の推進
9、23日は「観察ノート」の制作・検討会が行われました。スクリーンに映し出された各自の説明文を、全員で検討しました。また、デジタル制作を担当する4名が小委員会を開いて、制作方法を検討しました。樹名板の追加の制作も行いました。

青陵の森の歴史(変遷)資料発見

太田さんからの情報

2010年、4月6日付河北新報(上)には、「青陵の森愛好会」が発足されることについて書かれています。

その後の活動について、会長の千葉猛さんへの玉井照枝さんによる聞き書き「森の小父さん」(下)も発見。



中山街道・根白石編



←満興寺。仙台城にあった門を移築したと伝わる



↑栽松陰のお墓



↑根白石の起源と言われる大石



↑達磨坂にあった梅の木。現在は枯れていた



←天明6年と刻んだ飢饉供養碑がある



↑小角の石碑群。今も地域の住民から大事に守られている



→早坂下の旧道に降りていく

八乙女川の崖はみがき砂、凝灰岩の産地。崖に採掘した穴が残っているようだ。

新早坂下橋の北側の旧道へ降りた地点。かつてここに道しるべがあった(古い橋とつながる道)。いまは林泉寺の門の横に置かれている。

41年前に橋(広瀬橋)がかかるまで、実沢小学校の通学路の七北田川ではイカダのような『流す橋』を使っていた(近くの橋は上流の鼻毛橋。遠回りだった)。

達磨坂にある梅の木。(仙台道中歌)梅の木は残っていたが枯れていた。

窪には石碑群があった。古くから近隣の方が石碑群の手入れをしていた。現在もお守りしている。

ここは根白石街道と七北田一大沢(現在の泉塩釜線)が交差する場所。

天明の飢饉供養の石碑があった。

判在家に村名起源の石があった。平成10(1998)年設置。建物の裏には享保13(1728)年の石がある。

根白石では市民センターで20分の休憩&お弁当タイムの後、満興寺へ。

門前に、牛頭天王。山門前に不容輩酒(ふようくんしゅ)入山門。山門は仙台城辰の口の方角にあった、本丸切通門を移設したものと考えられる。

そして白石城跡、栽松院のお墓と三十三所観音を見る。栽松院とは伊達政宗の祖母。白石城に移り住み、ここで亡くなった。

高長商店で大福などのお買物休憩。バス停で珍しいアカガシのどんぐり拾いをしてバスで実沢(小学校)まで。

熊野神社に寄り実沢営業所まで歩き870系統のバスに乗って帰った。

(小田記)

バス停・北中山二丁目下車で、根白石街道の旧道を歩いて根白石まで。

根白石ボランティアガイドの大平さん・荒井さんに案内してもらって、新早坂下橋の下の旧道を歩き、その先にサイダー工場(ラムネ工場ともいわれた)があった話を聞いた。

川にあった旧道の古い橋(八乙女橋)の橋脚は探したが見つからなかったようだ。

道祖神はかつては二ノ関屋敷にあったもので、この場所に移動した。八乙女川、菅場川、七北田川の合流地点が見える場所。氾濫を繰り返し、川の流路はどんどん変わった。新早坂下橋は平成4年完成。

→八乙女川と菅場川の合流地点。右下に見える橋は、旧早坂下橋